

BUTSURYO SHINBUN

No. 31

発行所：大阪物療大学
発行者：田中 博司
発行年月：2026年9月
編集：入試広報課
※無断転載を禁じます。

建学の精神

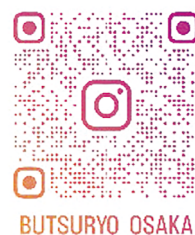
之科學為報國修

これかがくをくににむくいるためにおさむ



CONTENTS

- P1 – 学長挨拶
- P2 – 入学式・奨励賞授与式
- P3 – 一泊研修・先輩インタビュー
- P4 – スポーツフェスティバル・第24回市民公開講座
- P5 – 新入生インタビュー
- P6 – 物療祭案内・第25回市民公開講座案内・Instagram紹介



Instagram



大学HP

message

学長挨拶

令和8年(2026年)は、地震、熱波、豪雨etc の自然災害が多発しています。

いつなんどき、自分自身が巻き込まれるか心配になります。

一人ひとりに何ができるのか、何をすべきか、真剣に考える時間が必要です。

毎年、春秋に市民公開講座を開催していますが、
その基本テーマ「自分の体は自分で守る」ことの大切さを
改めて熟考する時かもしれません。

後期開講にあたり、再スタートの時にもう一度、
“ 自分がやらなければならないことを再度考えてみませんか!! ”

初心に戻って!!

悔いの残らない大学生活をすごすために。

よろしくお願いします。



大阪物療大学

学長 田中 博司

入学式



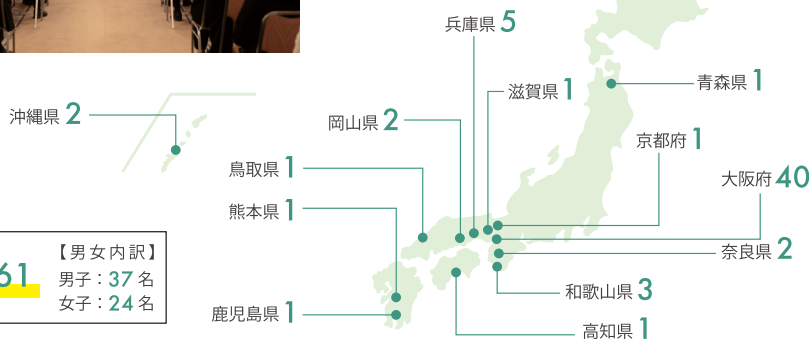
2026年度大阪物療大学入学式を4月1日(水)ホテル・アゴラリージェンシー大阪にて挙行し、新たな門出を迎えた新入生61名が緊張と期待の入り交じる面持ちで学生としてのスタートを切りました。緊張した面持ちで入学式に臨んでいる新入生の姿は大変印象深いものでした。

式においては新入生代表により医療人としての輝く未来に向け、力強い誓いが述べられました。学長からは、建学の精神に込められた思いを胸に、素直な気持ちで話を聞き、毎日コツコツと自己研鑽に励んでほしいと、温かい激励の言葉が送られました。新入生の皆さんは、医療の未来を



担う第一歩を踏み出した実感を強く持たれたことでしょうか。豊かな人間性を備えた「診療放射線技師」を目指し、実り多き学生生活を歩んでください。

また、入学式後の大阪物療大学学生表彰式においては、優秀な成績等を修めた6名の在学生が表彰されました。その後の保護者懇談会では、教員との対話を通じ、一人ひとりに寄り添う本学の教育方針を、保護者の皆様に深く実感していただける機会となりました。



【男女内訳】
男子：37名
女子：24名
計 61



奨励賞授与式

入学式後に行われた学生表彰式では、優秀な成績や顕著な功績を収めた学生6名が表彰されました。新入生も在学生の誇らしい姿に触れ、その努力と成果を会場全体で称えました。

今後、「医療人」を志す仲間たちとともに切磋琢磨しながら学びを深め、それぞれの目標に向かって成長していく姿を楽しみにしています。

特待奨学金制度

就学に熱意を持ち人物・成績ともに優秀で、他の学生の模範として、学業に取り組んでいる学生を対象に授業料(年間)の2分の1相当を給付する制度です。

授与者

左側より

- 金井 雄太郎さん(4年生) 私立中央国際高等学校 出身
- 青山 憂玲さん(4年生) 和歌山県立海南高等学校 出身
- 清瀧 天珂さん(3年生) 大阪府立鳳高等学校 出身
- 寺岡 仁さん(3年生) 私立近畿大学附属高等学校 出身
- 上田 優希さん(2年生) 大阪府立鳳高等学校 出身
- 永野 彩花さん(2年生) 私立清教学園高等学校 出身

授与者からのコメント

上田さん：「特待生選出に感謝し、命に向き合う医療の本質を突き詰める探求心を持って、研鑽に励みます。」





DAY
1

新入生 一泊研修

出会いと交流が始まる大学生活



本学では、毎年恒例となっている新入生一泊研修を、4月6日(月)から7日(火)にかけて神戸しあわせの村で実施しました。今年度は「ふれあい、自覚する」をテーマに、初年次教育科目「物療科学ゼミナール」の環として、新入生が大学生活を円滑にスタートできるよう、学生同士や職員との交流を深めることを目的に行いました。

当日は、新入生 60名、在学生ボランティア 20名、学長・職員 19名の計 99名が参加しました(新入生1名は体調不良により欠席)。

1日目は、職員紹介から始まり、こころをほぐすアイスブレイクを行いました。また、新たな試みとして、グラウンドゴルフ体験も取り入れました。在学生スタッフも新入生の輪に加わり、交流を深める中で、新入生からは「緊張がほぐれた」「心が和んで楽しかった」といった声が多く聞かれました。

夕食はバイキング形式で楽しみ、夜には在学生による大学生活や臨床実習の紹介が行われました。先輩から実際の大学生活について話を聞くことで、新入生にとっては学生同士の交流を深めるとともに、これから始まる大学生活や医療人としての学びについて考える機会となりました。

天候にも恵まれ、2日間の全日程を無事に終えることができました。今回の研修を通して、新入生同士はもちろん、在学生や職員との交流も深まり、これから始まる大学生活への期待を膨らませる機会となりました。

研修の実施にあたり、ご協力いただいた職員ならびに在学生の皆様へ、心より感謝申し上げます。

2日目は、クラス単位で野外炊飯を行い、協力してカレー作りに挑戦しました。どの班も役割分担をしながら調理を進め、チームワークを発揮。にぎやかな雰囲気の中で、仲間との親睦をさらに深めました。とくに、おいしいカレーを作ったクラスとして学長表彰を受けました。チームは、満足そうな笑顔を見せていました。



DAY
2



先輩インタビュー

昨年度は参加者として、今年度はスタッフとして一泊研修に参加した3名の学生にインタビューしました! 参加する立場から支える立場へ——。1年間でどのような心境の変化や成長があったのでしょうか?

飯田 蒼生 さん (2年生)
大阪府立金剛高等学校 出身

Q. 1年生のとき、一泊研修に参加する前はどんな気持ちでしたか?

A. 正直、不安でたまりませんでした。まだ学校が始まって3日ほどしか経っておらず、顔も名前も知らない人たちと1泊することに対して、なかなか気が重かったことを覚えています。しかし、実際に参加してみると、多くの人と話すきっかけができ、友達も増えて、不安以上に楽しい思い出となりました。

Q. 1年生と2年生の一泊研修では立場が異なると思いますが、気持ちの変化はありましたか?

A. 1年生のときは、とにかくいろいろな人と交流することに精一杯でした。しかし、2年生ではスタッフという立場になり、自分が1年生のときに先輩方にしていただいたように、1年生がさまざまな人と話したり、クラスの仲を深めたりできるようサポートしたいという気持ちが強くなりました。また、このようにさまざまな人と関わる機会は普段あまりないため、1年生には思い切

り楽しんでもらいたいという気持ちで取り組んでいました。

藤田 幸葡 さん (2年生)
関西福祉科学大学高等学校 出身

Q. スタッフをやってみようと思ったきっかけは何ですか?

A. 同じグループの友人たちと「プチ旅行感覚で参加しよう!」という話になり、一泊研修に参加しました。最初はどう接したらよいのか分からず不安もありましたが、アイスブレイクを通して徐々に距離が縮まり、最後には楽しく交流することができました。友人の新たな一面を知ることでもでき、思い出に残る有意義な時間になりました。

Q. 2年生でサポートスタッフとして参加してみても、1年生の頃との違いはありましたか?

A. 先生方から就職や進級、今後の大学生活について直接話を伺う機会が増えたため、今後について具体的に考える時間になりました。

松野 朱莉 さん (2年生)
大阪府立高石高等学校 出身

Q. スタッフとして心掛けていたことは何ですか?

A. スタッフとしては、笑顔で1年生と接し、交流を楽しむことを大切にしていました。一方で、2年生として必要な場面では的確な指示や誘導を行い、スタッフとしての役割をしっかりと果たせるよう、メリハリを意識して取り組みました。

Q. 一泊研修を通して、自分自身が成長したと感じることはありますか?

A. 成長したと感じたことは、1年生ではあまりこのようなイベント行事に対して、内気でありましたが、オープンキャンパスや一泊研修を通してより一層前向きに取り組めるようになったことです。

インタビューにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。
これからの大学生活が充実したものとなり、それぞれの夢に向かって大きく成長されることを期待しています。



SPORTS FESTIVAL

スポーツフェスティバル

2026年5月28日(木) 大浜だいしんアリーナ

2026年5月28日(木)、大浜だいしんアリーナにおいてスポーツフェスティバルを開催しました。当日は天候にも恵まれ、爽やかな青空のもと、多くの学生と職員が参加し、大変盛況な行事となりました。

当日は、9時50分から学生総会を開催し、10時より田中中学長のご挨拶、続いて山本教授の挨拶、準備体操を行った後、競技を開始しました。最初の競技はアイスブレイクとして「トス回し」を行い、学生と職員が一緒になって親睦を深めました。続いてバレーボール大会を実施し、勝ち上がった優勝候補の2チームと職員チーム、自治会チームとの対戦も行われ、大いに盛り上がりしました。午後からは「しっぽ取り」と「障害物リレー」を実施し、学生たちは最後まで活気あふれるプレーを見せてくれました。閉会式では山田学部長よりご挨拶をいただき、全日程を無事終了しました。競技の結果は、優勝が緑チーム、準優勝が黄チームとなりました。



スポーツを通して、学年を超えた交流が生まれ、学生同士はもちろん、学生と職員との親睦も一層深まりました。大学生活における団結力や一体感を育む大変有意義な機会となり、参加した学生の笑顔が印象的な一日でした。

最後になりましたが、本フェスティバルの開催にあたり、ご尽力いただいた学生自治会の皆さん、参加して下さった学生の皆さん、職員の皆様、そして学務課の皆様に心より感謝申し上げます。皆様の協力のおかげで、素晴らしいスポーツフェスティバルを開催することができました。誠にありがとうございました。



第24回市民公開講座

■2026年5月17日(日)



解説されました。

特に、筋肉量の維持・向上のための栄養摂取の重要性や、無理なく続けられる運動習慣の工夫についての説明は、参加者の皆さまにとって身近で実践しやすい内容となり、熱心に耳を傾ける姿が見られました。講演後の質疑応答でも、多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

2026年5月17日(日)、大阪物療大学にて「第24回市民公開講座」を開催いたしました。

今回のテーマは「食べて動いて、元気に歳を重ねるーフレイル・サルコペニアを防ぐ、毎日の食事と運動のコツー」と題し、本学保健医療学部診療放射線技術学科教授の保木昌徳先生による講演が行われました。

本講座は、地域社会への貢献および市民の皆さまの健康保持・増進を目的として開催しており、今回は63名の方にご参加いただきました。

講演では、高齢期における健康課題として注目されている「フレイル」や「サルコペニア」について、基礎知識から日常生活で実践できる予防方法まで、具体例を交えながら分かりやすく

体の約94%を占め、高い満足度が得られました。また、「非常にわかりやすかった」「わかりやすかった」との回答も約95%にのぼり、内容の理解しやすさについても好評でした。

自由記述では、「栄養の重要性について勉強になった」「毎回受講しているが、改めて再認識できた」「食生活のヒントにしたい」など、前向きなご意見が多く寄せられました。

また、参加者の多くが本学からの案内をきっかけに会場されており、地域とのつながりの重要性が改めて確認される結果となりました。

大阪物療大学では、今後も市民の皆さまの健康意識の向上と地域社会への貢献を目的とした公開講座を継続して開催してまいります。

今年入学した新入生2名に、
「なぜ大阪物療大学を選んだの？」
「大学の勉強は難しい？」など、
学校生活にまつわる気になるギモンについて
インタビューしました！

新入生 インタビュー



1年生
宮崎 美羽 さん

沖縄県立与勝高等学校 出身

Q なぜ大阪物療大学を選びましたか？

A 父が大阪物療大学の卒業生で、以前から大学について話を聞く機会があり、親しみを感じていました。また、診療放射線技師を目指したいという思いがあり、少人数制で先生方に相談しやすく、一人ひとりを丁寧にサポートしていただける環境に魅力を感じ、この大学を選びました。

Q 入学後、大学の勉強は難しいと感じますか？

A 人体の構造や名称を覚えることが多く、理解するまでに時間がかかるため、難しいと感じることがあります。しかし、授業や復習を重ねながら少しずつ理解を深めています。

Q 高校と大学で「ここが違う！」と感じたことはありますか？

A 大学は高校よりもテスト範囲が広く、内容の難易度も高いため、計画的に勉強を進めることが大切だと感じています。また、日頃から授業をしっかり聞き、復習することの重要性を実感しています。

Q 大学生活で「楽しい！」と思う瞬間を教えてください。

A 友達と一緒にご飯を食べたり、学校生活について話したりする時間が楽しいです。また、診療放射線技師が実際に使用する医療機器について学ぶ授業では、将来の仕事をより身近に感じることができ、とても興味深く学んでいます。

Q どんな診療放射線技師になりたいですか？

A 患者さんとのコミュニケーションを大切にし、不安な気持ちに寄り添いながら安心して検査を受けていただける診療放射線技師になりたいです。また、確かな知識と技術を身につけ、病気の早期発見・早期治療に貢献できる医療従事者を目指しています。

Q なぜ大阪物療大学を選びましたか？

A 歴史が長く、実習に用いる機器が充実していることに魅力を感じました。また、フリーキャンパスに参加した際の先生の温かい対応から、先生との距離が近く、安心して学べる大学だと感じたため、大阪物療大学を選びました。また、少人数担任制によって勉強への意欲が高まると感じたからです。

Q 大阪物療大学の魅力は？

A 大阪物療大学の魅力は、長い歴史があり、診療放射線技師を目指すための設備や実習機器が充実しているところだと思います。

Q 入学してから自身が成長したと感じることはありますか？

A 人体についての知識が深まるため、身体を痛めたときに、どの骨や関節に負担がかかっているのか、また、どのような動きのときにその骨や関節を多く使うのかが分かるようになりました。

Q 学校周辺のおすすめスポットは？

A 大学の目の前にイトーヨーカドーがあるため、フードコートで勉強や昼食をとることができます。

Q どんな診療放射線技師になりたいですか？

A 業務を淡々とこなすのではなく、患者さんに寄り添い、不安を最大限に取り除くことのできる診療放射線技師になりたいです。



1年生
山本 武児 さん

大阪府立鳳高等学校 出身

インタビューにご協力いただいたお二人、ありがとうございました。

今後も学生たちの活躍やキャンパスライフの様子を、本誌や公式Instagramでお届けします！

ぜひ6ページのQRコードから公式Instagramをフォローして、学生たちの日常や大学の最新情報をご覧ください！

CHECK





日時

1日目 2026年10月16日 金
▶ 10時00分～15時00分

2日目 2026年10月17日 土
▶ 10時00分～16時00分

※ 開催時間は変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

場所

大阪物療大学 4号館
〒593-8329 大阪府堺市西区下田町 23-1

現在、学生たちは、物療祭に向けて「どんな屋台なら楽しんでもらえるかな？」とアイデアを出し合いながら、さまざまな企画を準備しています。当日は、おいしいグルメや楽しいゲームなど、学生たちが工夫を凝らした屋台やイベントが勢ぞろいする予定です！また、2日目には毎年大好評のビンゴ大会を開催予定です。豪華景品が当たるチャンスも

あるので、ぜひご期待ください！

普段の授業や実習では見ることのできない、学生たちの笑顔や仲間と協力して取り組む姿も、物療祭ならではの見どころです。保護者の皆さまにも、学生生活の雰囲気を感じていただける絶好の機会となっています。ぜひご家族そろってお越しいただき、学生たちと一緒に物療祭をお楽しみください。

大阪物療大学

第25回市民公開講座のお知らせ

今こそ考えよう

～震災から生き延びるための備え～

講師：山本 加奈子 先生（関西医科大学 看護学部教授）

日時

2026年10月17日 土

10時30分～12時00分（受付開始：10時00分）

場所

大阪物療大学 4号館アリーナ

〒593-8329 大阪府堺市西区下田町 23-1



近年、地震や豪雨などの自然災害が全国各地で頻発しています。本講座では、看護師として災害時の健康管理や被災者支援に携わってきた経験を踏まえ、震災から命を守るために必要な備えについてお話しします。

家庭でできる防災対策や備蓄、避難生活で気をつけたい健康管理、地域での助け合いの重要性、災害時の情報収集の方法などを具体的に紹介し、「自分と大切な人が生き延びるための備え」を一緒に考えます。

お申し込みは、右記のQRコードからご確認いただけます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



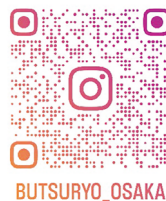
大学の日常を /

Instagram

で発信中！

大阪物療大学公式Instagramでは、授業や実習の様子、オープンキャンパス、学内イベントなど、学生たちのリアルなキャンパスライフを発信しています。

物療新聞ではお伝えしきれない日常の風景や最新情報も随時更新していますので、ぜひフォローして学生たちの活躍をご覧ください！



BUTSURYO_OSAKA

お問い合わせ先

大阪物療大学 入試広報課

Mail / kouhou@butsuryo.ac.jp TEL / 072-260-0095